

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
家族論 Family theory		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
小竹仁美		講義棟3階	水・木・金（授業時間と学生相談時間を除く）	授業中に指示します
授業の概要				
社会の変化に応じるように、家族の人間関係や家族のあり方は変容し、家族に関わる様々な問題がもたらされている。この科目では、私たちにとって最も身近なテーマのひとつである家族について、人の発達を軸とした家族の発達過程、家族機能の変容、家族関係の病理と介入などを取り上げ、家族や家族を取り巻く現状を理解し、分析する能力の習得を図る。				
授業の目標				
①家族の発達過程を理解し、説明できるようにする。②家族機能の変化とその関連要因について説明できるようにする。③家族関係をめぐる様々な問題と介入について実践的知識を得て、基本的対応行動をとれるようにする。				
授業の方法				
講義形式と、グループワークなどの参加型形式。				
学習の成果（学習成果）				
①家族の発達過程を理解することによって、自らと家族との関係を見直すことができる。②家族と社会の関係を念頭に、社会問題に関心をもち、知ろうとする態度を持つことができる。③家族関係の病理に関する知識をふまえ、家族が抱える現象を分析し、自らにできる行動をとることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス：授業の概要や目標の説明 成績評価や受講上のルールの説明 家族とは			
第2回目	家族をめぐる状況 家族心理 家族研究法			
第3回目	家族の機能 家族の危機			
第4回目	家族のシステム			
第5回目	家族の発達過程と発達課題			
第6回目	私と家族			

第7回目	恋愛 婚活
第8回目	結婚と就労
第9回目	夫婦の関係 夫婦の問題
第10回目	子どもの育ちと親子関係の変化
第11回目	子どもの問題行動と家族関係
第12回目	子育てのストレス 子育て環境
第13回目	ひとり親 親の権利
第14回目	さまざまな夫婦と家族の形 定期試験
第15回目	高齢者と家族
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	20% 授業に集中して、しっかりノートをとっている。グループワークで意見を述べ、他のメンバーへの配慮がみられる。
レポート	30% 单元ごとにレポート課題を出す。課題の目的を把握し、探究し、論理的に構成されている。
調査報告書	
小テスト	
試験	50% ○×問題と記述問題を実施する。設問の要求を満たし内容構成がしっかりしていて、自分の考えが示されている。
発表内容（態度含む）	
その他	
教科書と参考図書	
必要に応じて、資料を配布する。	
履修上の留意点・ルール	
積極的な参加を期待する。	